



輪之内中学校「環境教育」

教諭 西脇 敬さん

町ぐるみで環境教育。地元の企業からも学びます。

主に「総合的な学習の時間」の中で、環境学習に取り組んでいる輪之内中学校。特に熱心になったのは、7・8年ほど前からだとのこと。琵琶湖への研修旅行などを積極的に行っていました。町内の環境活動にも幅広く関わり、大樽川清掃への参加やこちらは自主的な活動ですが、関心のある生徒を募り、「輪之内町環境講座」の生き物調査・投網体験や環境をテーマとしたワークショップなどにも参加します。

弊社工場への見学は、地域への関心を深めていく中から出てきた動きです。地元にも、環境ビジネスに携わっている企業が何社もあり、問題意識を持ってその仕事内容に注目。そうした経緯から、産業廃棄物の処理・リサイクルを行っている弊社にもお声をかけていただいたのです。日本が循環型社会をめざすなかで、産業の現場がどのように動いているのか、どんなことに気を付けて仕事をしているか、将来を担う子どもたちにご見学いただくことは、有用であるに違いありません。

環境への関心は、
身近な出来事からひろがります。

もともと輪之内町は、水害との闘いの長い歴史があるなど自然との関わりが深く、環境への関心が高い地域。県内の市町村では環境 ISO14001 を最も早く取得しているほか、環境ボランティアの皆様の活動も、大変活発に行われています。カワバタモロコ保護条例は、単一の種を保護条例化した全国でも珍しい施策として、注目を集めています。

西脇先生ご自身も、毎年春と秋にある大樽川の清掃には、部活などの用事がない限り、必ず参加されているとのこと。環境教育・環境活動に熱心な方であると、お見受けしました。そういう先生から見ても、「輪之内の子どもたちの環境意識は高いと感じている」そうです。川の水や生き物のこと、ゴミのリサイクルのこと.. 大切なのは、頭で考え、心で感じること。この町には、いつもの暮らしの中で、環境に関する意識を高められる土壌があるようです。

取材へのご協力に感謝します！

昨年に引き続き、輪之内本社工場の見学および仕事内容の説明をさせていただきました。さすが！環境について継続的に学んできた皆さん。見学している時の真剣なまなざしが印象的でした。



輪之内中学生のみなさんが見学に来ました。



見学用通路から工場内の様子を見学します。真剣な表情です。



弊社がつくる RPF（固形燃料）の説明をしています。



琵琶湖の歴史や環境などについて学ぶため、6月の研修旅行がありました。



環境観察船にて水質調査や微生物の観察中。